

海外エコツーリズム(インドネシア)参加レポート

国際交流学部国際交流学科1年

私は今回の研修で感じたことが大きく2つありました。

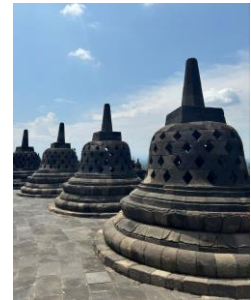


1つは、自然保全活動の発展が日本に比べて著しいということです。熱帯林でのエコツアーをはじめ、マングローブの植林活動や NGO 法人が運営するエシカルショップなどのあらゆる面で自然保全活動が施されていると感じました。またその活動に参加する人々や、その環境禍に暮らす人々には、各々自然への思い入れがあり、ポジティブに自然保全をしているところが日本とは大きな違いだと感じました。

日本には、インドネシアのような熱帯林もありませんし、そこに住むなんてこともないため、自然との距離感の違いは多少あります。ですが、自然保全活動に参加することをもっとポジティブに考えていいのではないかと考えました。

私も今まで「地球環境が危ないから、もう時間がない」などという考えを自然保全活動へのモチベーションにしてきましたが、純粹に「自然を守りたい、自分達の住処を大切にしたい、この自然をもっと多くの人に知ってもらいたい」という思いが大切なのだと気づくことができました。

もう1つは「異文化」の中で生きるということの楽しさと大変さです。言語や文化も違えば、生活スタイル、考え方、宗教観など違うところだらけで、その新鮮さを理解する楽しさもありつつ、大変な部分もありました。特に排便や、食事、お祈りの習慣などの生活スタイルの違いは想像よりも大きく、慣れるまで大変でした。ですが、実際体験してみないとわからないことも多く、現地の人々の常に明るく暖かい雰囲気のおかげでより理解を深められたと感じています。



また現地の人とインドネシアの文化や考え方について話すことで、自国との違いを感じることができました。自国の大学生活や、就職活動について共有したり、今世界で深刻になっている紛争について話したり、自然やエコに限らず、様々な話題で話し、その度に新しい発見がありました。



このような体験の中で、今まで頭の中でしか「異文化」という概念を知らなかったものが、実際に肌で感じ取り、経験することによって、その楽しさや大変さを直に理解することができたと実感しています。同時に「異文化」という概念を新しい方向から見つめられるようになりました。

10日間という短い時間でしたが、10日間とは思えないほどの濃い時間を過ごすことができました。この研修で得た経験を日本でも活かし、伝えられればと考えています。